

現在要請のあるものの中にはフィジーのサイクロンによって、家を失った人々に対する仮設住宅の要請などのほか、医療設備の充実を訴える要請、バングラディシュの眼科医療機の購入など、多くの要請がなされています。

このうちどれを採択するか意見交換が行われましたが、取り敢えず、資料と共にインビテーションのあるトルコへ内容調査の為の視察旅行を行なう予定となりました。

調査団に対しては約15万円位の補助が出ますが、旅費などはすべてメンバー各自が負担することになっています。

次に大会ですが、午後1時から恒例の行事があり、その後G S Eの時間が設けられてありました。今年オーストラリアから来ているチームリーダーと4名のメンバーの紹介があり、職種も警察官、男性と女性のほか病院の看護婦で広報担当の女性と学校事務員でした。

此方から行くグループも、当クラブ推薦の五十嵐良子さん（英語教師）ほかチームリーダーとメンバーが紹介されました。

山本財団委員長の挨拶のほか、各国から来ている奨学生を代表して夏季交換学生と米山奨学生などそれぞれ自己紹介挨拶がありました。今年度は財団創立80周年でもあります。

その後オーストラリアチームによる音楽演奏や歌唱が披露されました。

たまたま夜の宴会で隣席となったバングラディシュのデレティストで新潟大学の4年過程で学ぶ女性の民俗衣裳も印象的でした。兎に角みんな短期間（6か月位）でも日本語は上手で驚きました。

其の後は各種表彰が続き、第1日目の会議は終了し、2日目はニュースキャスター新堀俊明氏の講演や、竹山会の津軽三味線などお祭り気分に参加者一団有意義な日を過ごさせて頂きました。以上私の立場で簡単に御報告致します。

職業奉仕（ボランティア活動委員長）淵岡 茂

R I 会長代理より国際ロータリールイス・ジアイ会長は

。先達の歩みに敬意を払うことにより

。会員増強により

。職業奉仕の質を高めることにより

。次の世代を準備することにより

。平和な都市づくりに尽力し

。ロータリー財団を支援することによって

「未来を築こう」と提唱している。

職業奉仕を通じて素晴らしい未来を築く為、会員相互の親睦を計っていく努力を北ロータリー会員各位にお願いしたい。

11月12日例会： クラブアッセンブリー「分区代理を迎えて」

11月19日例会： ガバナー公式訪問 於おゝ乃

11月26日例会： 卓話「旅」 平松利朗会員



三条北ロータリークラブ週報

築け未来を
行動力と先見の眼で

例会日
1996. 10 . 29
累計 No 486
当年 No 17

国際ロータリー会長 ルイス・ピセンテ・ジアイ 第2560地区ガバナー 吉田昭平

会長／堀川 正幸

幹事／佐藤 義英

SAA／長谷川 恵慈

例会日／火曜日 12:30～13:30

例会場／三条ロイヤルホテル ☎34-8111 FAX34-8114

事務局／三条市西四日町3-15-34

ヒューマン・ハーバー内 ☎35-7160 FAX33-8972

行事： クラブフォーラム

「地区大会報告」会長 堀川正幸、社会奉仕委員長 山本 賢

国際奉仕委員長 木宮 隆

青少年奉仕（ライラ副委員長）石川勝行

地区役員 山上茂夫会員

職業奉仕（ボランティア活動委員長）淵岡 茂

出席： 本日の出席 56名中34名

先々週の出席率 56名中47名 83.93%（前年同期92.73%）

先週のメークアップ： 10月23日 三条RCへ 坂内康男さん、山上茂夫さん、加藤 實さん
外山晴一さん

23日 秋田RCへ 柄沢憲司さん

24日 燕RCへ 小林 満さん 佐藤啓策さん

25日 吉田RCへ 小林 満さん

27日地区大会参加 堀川正幸さん、佐藤義英さん、山上茂夫さん

米山忠俊さん、本間建雄美さん、山本 賢さん

木宮 隆さん、馬場直次郎さん、布川和雄さん

西村 護さん、山中 正さん、落合益夫さん

羽賀一夫さん、早川龍雄さん、平松利朗さん

梨木建夫さん、坂本勝司さん、今井克義さん

山本 充さん、阿部誠一郎さん、樋口金占さん

江口 悟さん、石川勝行さん、大野新吉さん

淵岡 茂さん 25名

28日 三条南RCへ 梨本清一さん、長谷川博一さん

ビジター： 三条RCより 高橋政志さん

会長挨拶： 堀川正幸

ご挨拶申し上げます。

26日、27日と地区大会出席ご苦労様でした、ありがとうございました天候があまり良くなく、エクスカージョンなども大変だったのではないかと思います。

私は26日に結婚式があり、27日しか出席してないわけですが、地区大会は大体いつも同じパターンで皆様もご存知の通りでございますので、あまり報告することも無いので、いつもの私の疑問の話をさせていただきます本日のテーマは「常温核融合」です。

核融合といいますと私達の知っている範囲では太陽の中で行われている現象というのがそれであると教えられたり、ものの本などで読んで知っている訳ですが、超高温、超高压でなければ核融合は起きないというのが常識になっているわけです。

ところがフランスのルイ・ケルブランという人が常温で核融合が起きる、という事を間接的に証明しております。しかし学界では認められておりません。皆様もご存知の通り科学の世界は実証主義的であり、再現性を重んじております、いつ、どこで、だれが、何度やっても同じ結果が得られるということを重視するわけです、そして直接的であり、権威やデーターを重んじるわけです。

ルイ・ケルブランはある時ニトリが土を一生懸命喰べるのを見て不思議に思い、その地方の土を分析してみたわけです、ところがその地方の土には雲母は含まれているが、餌にも土にもカルシウムは含まれていない事を発見しました、大変不思議に思い実験をしました。ニトリやカルシウムを一切与えず、土にも含まれていない所で飼いますと、やがて殻が軟らかくなってきます、そこで雲母を含む土を与えますと、鶏はむさぼるように土を喰べるそうです、そして翌日には硬く、殻の重さが7gもある卵を産んだそうです、何度やっても同じだったそうですが、雲母というのはアルミニウムとカリウムの珪酸塩であり、カルシウムは一切含んでいないわけです。ルイ・ケルブランは色々考えた末、雲母に含まれているカリウムに着目しました、そして鶏の糞に含まれているカリウムについて分析した所、食べた雲母に含まれていたカリウムの量よりも、排泄された糞に含まれているカリウムの量は明らかに少ないことが解りました。そこでルイ・ケルブランは鶏はその生体内でカリウムをカルシウムに原子転換しているのではないかと考えました、そして更に色々な実験をした結果、生物はその生体内で、相互に隣り合った4種類の原子、即ちナトリウム、カリウム、カルシウム、マグネシウムを必要に応じて変換をして作り出しているという結論に達しました。そしてこの学説を発表しましたが、認められませんでした、科学の世界は今までの常識に反する説をなかなか受け入れようとはしません、権威や有名人の言うことしか信じようとはしないわけです。ルイ・ケルブランの死後この学説に興味を持ち、実験をした人がいたそうですが、やはり同じ結果が得られたそうです、がやはり信じてもらえなかったそうです。もしこの説が本当ならば大変な事であり、生物はその生体内で、常温で、核融合と核分裂の両方を行っていることになりま

りも“変革の時”を迎えているように私は思いました。

国際奉仕委員長 木宮 隆

地区大会は当該年度事業の進捗状況の報告と以降の事業運営に対する指導を目的として年度半ばに開催されるイベントとの認識を私はもっておりました。正直言って昨今の地区大会はその内容に於て初期の目的とはだいぶかけ離れてきているとの思いを案じえません。参加したのが2日目だけだった為、前日に恐らく4大奉仕委員会の現況報告、並びに指導等があったのであろうと好意的にうけとっております。

ただ1点、当クラブから来年度オーストラリアへのGSE研修生として派遣される五十嵐良子さんがおそろいのブレザー姿で頑張っておられたのが印象的でした。

青少年奉仕（ライラ副委員長）石川勝行

朝7時30分頃三条市を出発し、約2時間かかって村上地区大会の会場に着きました。三条北ロータリークラブの一般出席者で義務出席者でないので気楽な気分で参加しました。それにしても立派な会場が田圃の真ん中にありました。

第2560地区大会は、新潟県と群馬県とで毎年交互に開かれています。今大会は「鮭のふるさと村上で、語ろう世界の平和と友情を」がテーマです。このテーマはロータリーの永遠のテーマである「世界の平和と友情」を柱にして鮭が生まれた川に再び帰ってきて尊い生命を育む習性に思いをはせた、ほのぼのとしたものです。

ところで、前日からの寒波でとにかく寒かった。しかも驚いたことに参加者分の席がない。あふれた人は外の寒いテントで。最初からわかっていたことである。驚いたのは私だけではないのではないのでしょうか。出席者全員の席がなかったこと、寒いテント会場、青少年奉仕委員会は27日になかったこと、帰りのバスが30分も遅れたこと等いろいろありました。

しかし、地区大会は友情交歓のまたとない場であります。昼食時に背中をたたくので振り返ると何と群馬県のロータリアン2名。10月4～6日妙高でのライラ研修会の休憩室で夜遅くまで飲み明かした仲間でした。感激しました。寒さも三条に帰ってからの「おお乃」で解決しました。

WCS委員（世界社会奉仕委員会）山上茂夫

地区大会・第1日目と第2日目に出席しました。それに並行して第1日目午前中はWCS（世界社会奉仕委員会）会議がありましたので、其の内容からお伝えします。

事業経過報告で、イスタンブール、サリエRCの援助申出によるプロジェクトに送金したこと、同じくフィンデイクリRCとの同額補助金申請に対する対応が検討されたことなど報告されました。

因みに同額補助金は、2つ以上のロータリークラブが検討しかつ提携された奉仕事業に対し、ロータリー財団が、同額の補助をするものです。これも奨学金制度と共にロータリー財団の大きな社会奉仕事業となっています。

したがって必要資金の¼をそのクラブが負担すればよいことになりますが、この地区ではまとめて各クラブから基金を徴収していますので、計画が実行しやすくなっています。